

氏名	末 澤 知 聡
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 4008 号
学位授与の日付	平成17年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Time-dependent Changes of Plasma Osteopontin Levels in Patients with Anterior Wall Acute Myocardial Infarction after Successful Reperfusion: Correlation with Left Ventricular Volumes and Function (再灌流に成功した前壁急性心筋梗塞患者の血漿osteopontin・レベルの経時的变化：左室容積と機能の相関)
論文審査委員	教授 大江 透 教授 梶谷 文彦 助教授 五藤 恵次

学位論文内容の要旨

オステオポンチンは、組織リモデリングに関与する分泌型細胞外マトリックス糖蛋白である。我々は、前壁急性心筋梗塞(AMI)後、再灌流に成功した18人の患者において左室(LV)容積・機能と血漿 osteopontin(p-OPN)値の関係を調べた。p-OPN 値は、入院後2日より増加し、3日に最高値に達し、7病日まで高値を維持、14病日には減少した。最大 p-OPN 値と、最大値と最小値の差(OPNrange)は、LV 収縮末期係数と正の相関をし、左室駆出率(LVEF)と負の相関であった。AMI 後の14日間の p-OPN 値の曲線下領域(AUC OPN)は、LV 収縮末期係数、LV 拡張末期係数、LVEF と相関していた。p-OPN 値は、血漿高感度 CRP(hsCRP)と相関し、血清クレアチンキナーゼとの相関は弱かった。以上より、p-OPN 値は経時的に変化し、LV 容積と機能と相関し、炎症反応や梗塞サイズとも関連を認めた。

論文審査結果の要旨

本研究は、急性心筋梗塞後のオステオポンチンの血中濃度増加と左室機能の相関を検討したものであるが、従来十分確立されていなかった急性心筋梗塞後のオステオポンチンの臨床的意義に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。